大いなる角として預言されていたギリシャの王　　聖書通信-23

不安な将来

ウクライナ戦争は泥沼化し停戦のめどが立ちません。
エネルギー価格の高騰、加えて食糧不足の足音が聞こえてくるようです。

将来への不安が増し加わっていますが、将来への確かな見通しがあるのでしょうか。
神の言葉聖書の中に将来への確かな指針を見いだすことが出来ます。

今日もその一助としてダニエルの預言に耳を傾けてみましょう。

ダニエルは前6世紀に活躍した人物です。ダニエルの預言が余りに正確であるので、神を知らないある人々はダニエルの預言書は、後の時代に書かれたものではないかと異論を唱えています。
勿論その異論は誤っています。ダニエルはイエスの時代は言うに及ばず、私たちの時代も含め、さらに将来にわたる預言も語っています。明らかに神の力によって語ったものであることを証ししています。

逆に異論が出るほどダニエルの預言は正確であったとも言うことが出来ます。

大いなる角

その一つの証拠がギリシャ帝国の王として登場するアレクサンドロス大王に関するものです。
そこでは、ギリシャ帝国は雄ヤギとして示され、1本の大いなる角としてアレクサンドロス大王が描写されています。

その預言の中では、メディア・ペルシャ、ギリシャ、ローマに関してさらに興味深い情報も与えられています。

アレクサンドロス大王

ではその預言を見てみましょう。

> ベルシャザル王の治世の第3年，私ダニエルは，以前に見た幻とは違う幻を見た。 私はエラム州にあるシュシャン城にいて，ウライの水路のそばで幻を見ていた。 目を上げると，1匹の雄羊が水路の前に立っていた。それには2本の角があった。2本の角は長かったが，一方が他方よりも長く，長い方は後から伸びたものだった。 見ていると，その雄羊は，西，北，南に向かって突進した。どんな野獣もその前に立つことはできず，その力から誰かを救い出せる者もいなかった。雄羊は思うままに振る舞い，高慢になった。
> （ダニエル　8:1-4）

雄羊　メディア・ペルシャ

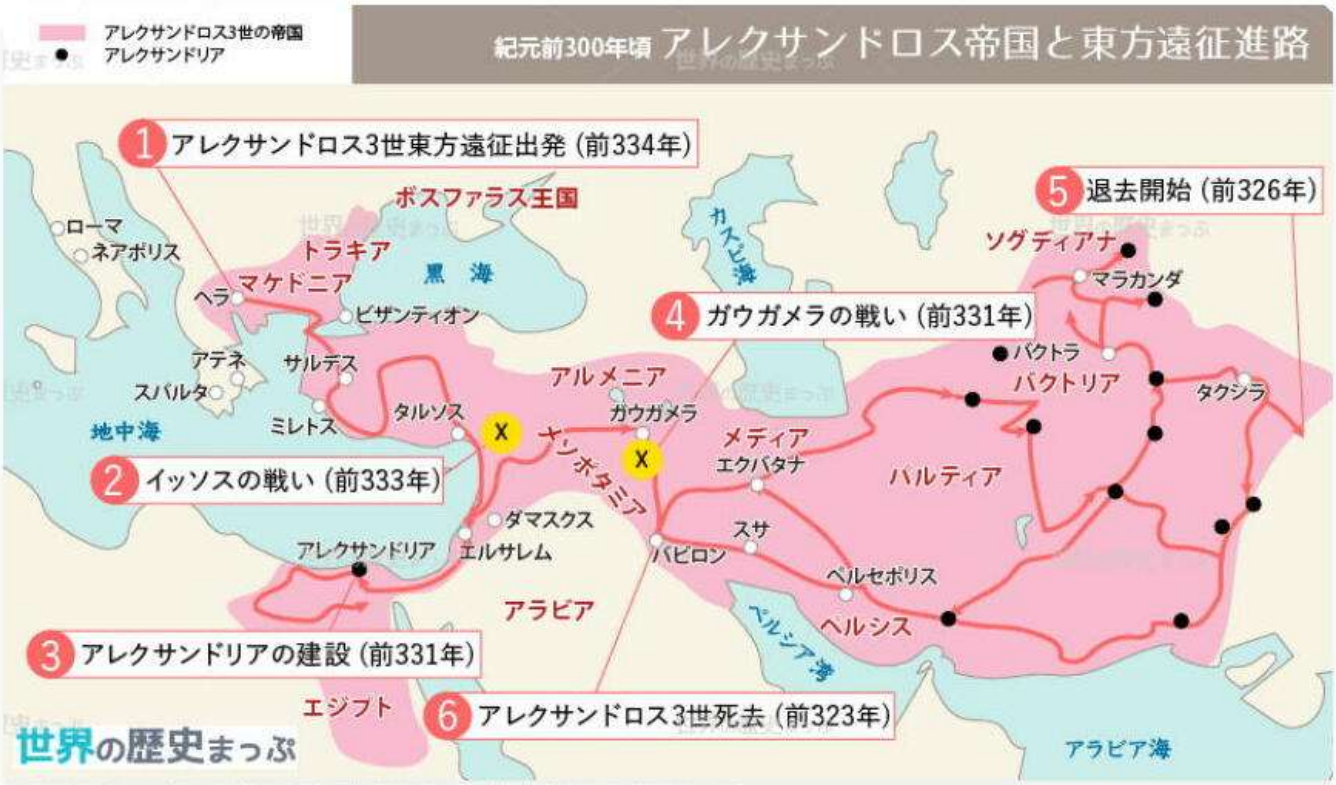
ここで登場してくる雄羊はメディア・ペルシャを表しています。
「それには2本の角があった。2本の角は長かったが，一方が他方よりも長く，長い方は後から伸びたものだった。」とあるように、メディア・ペルシャは当初メディア王国が有力でしたが、後に登場するペルシャ王国の方が勢力を強めていきます。
「雄羊は，西，北，南に向かって突進した。どんな野獣もその前に立つことはできず，その力から誰かを救い出せる者もいなかった。雄羊は思うままに振る舞い，高慢になった。」とあるように、最大の勢力であった西方にあるバビロンを打ち破り、北のリディア、南のエジプトを征服します。

「高慢になった」とあるように、その侵略の野望はギリシャへと向かいます。
しかしギリシャを打ち破ることは出来ませんでした。逆にギリシャがメディア・ペルシャに立ち向かってきます。次のように預言されています。

ギリシャの登場

さらに見ていると，1匹の雄ヤギが西からやって来た。地表に触れることなく，地上全体を横切って来た。目の間に1本の際立った角があった。　その雄ヤギは，水路の前に立っていた2本の角がある雄羊に向かって，猛烈な怒りを抱いて走ってきた。
雄ヤギは雄羊に対する敵意に満ち，迫っていって，雄羊を打ち倒して2本の角を折った。雄羊には立ち向かう力がなかった。こうして雄ヤギは雄羊を地面に投げ倒して踏みつけた。その力から雄羊を救い出す者はいなかった。
（ダニエル　8:5-7）

「1本の際立った角」として預言されていたのは誰でしょうか。そうアレクサンドロス大王です。
ダニエルが預言してから200年以上の前336年、アレクサンドロスが20歳の時に父が暗殺され、マケドニアの王として即位します。その2年後、ペルシャ征服のために進軍し、「地表に触れることなく」とあるように、破竹の勢いでペルシャを打ち破っていきます。前331年にガウガメラの戦いでペルシャの大軍を打ち破り、事実上ペルシャを征服し、前326年にはインドにまで進軍します。
まさにダニエルの預言通りになったと言えます。
しかし次の預言はアレクサンドロスに不吉なものとなります。



アレクサンドロス大王東方遠征進路地図 ©世界の歴史まっぷ

角は折れ四方に向かう

雄ヤギは非常に高慢になったが，強大になると，大きな角は折れた。代わりに4本の際立った角が生えてきて，天の四方の風に向かって伸びた。
「強大になると，大きな角は折れた。」　　（ダニエル　8:8）

この預言はどのように成就したでしょうか。
アレクサンドロスが32歳の時インドから引き返しバビロンに住んでいました。
アレクサンドロスはこのバビロンを往事のような都市として回復させ、首都と定めたいと思っていました。しかしバビロンは呪われた都市であり、その復興計画は神に逆らうものでした。
そのため彼は高熱を発し急死してしまいます。
息子も暗殺され、四人の将軍によって分割統治されてしまいます。

「代わりに4本の際立った角が生えてきて，天の四方の風に向かって伸びた。」
と言う預言が成就したのです。

四人の将軍	
カッサンドロス	マケドニア・ギリシャ
リュシマコス	小アジア・トラキア
セレウコス	シリア・メソポタミア
プトレマイオス	エジプト・パレスチナ

その預言の解釈が正しいことをダニエルに幻を与えた天使が次のように語っています。

> あなたが見た2本の角がある雄羊は，メディアとペルシャの王を表しています。 毛深い雄ヤギはギリシャの王を表していて，目の間にあった大きな角は最初の王を表しています。 その角が折れて，代わりに4本の角が生えてきましたから，彼の国から4つの王国が生じることになります。しかし，彼ほどの力はありません。　　（ダニエル　8:20-22）

さらに預言が続き驚愕の出来事が予言されます。

ローマの登場

> そのうちの1本から，別の小さな角が生え出た。それは非常に強大になっていき，南と東と「美しい地」に力を及ぼした。 天の軍勢に達するまでに強大になり，その軍勢と星の幾らかを地上に落として踏みにじった。 天の軍勢の長に対してさえ高ぶり，その方への日ごとの犠牲が途切れるようにし，その方の聖なる所の定まった場所を打ち壊した。 違反のゆえに，軍が日ごとの犠牲と共に引き渡された。そして角はしきりに真理を地面に投げ付け，行動して成功を収めた。　　（ダニエル　8:9-12）

「別の小さな角」とは何でしょうか。
ギリシャの影響を受けた一つの国がイタリアから登場します。
そうローマ帝国です。
「美しい地」とはイスラエル、特にエルサレムを指しています。
ローマに関してさらに詳しい預言が語られています。

> 彼らの王国の末期，違反を犯す者たちの行いが極限に達する時，曖昧な言い回しを理解する，どう猛な顔つきの王が権力を持つようになります。 その王の力は強大になりますが，自らの力でそうなるのではありません。彼は甚だしい破滅をもたらし，行うこと全てにおいて成功を収めます。力の強い者たちや聖なる民を破滅に至らせます。 ずる賢く人々を欺いて成功し，心の中で高慢になり，人々が安心している時に大勢を破滅に至らせます。そして長たちの長にさえ立ち向かいますが，人手によらずに打ち砕かれることになります。　　（ダニエル　8:23-25）

「甚だしい破滅をもたらし，行うこと全てにおいて成功を収めます。力の強い者たちや聖なる民を破滅に至らせます。」と予告されていたとおり、ローマはイスラエルを70年に滅ぼします。
ヨセフスによると、ティッス将軍によってエルサレムは包囲され、110万人が亡くなり、生き残ったのはわずか10万人余りであったと述べています。

イスラエルはその後もマサダの要塞に立てこもって抵抗を続けますが、遂に陥落し、ユダヤ人は捕虜にされ流浪の民になっていきます。

『ティトゥスによるエルサレム破壊』。ヴィルヘルム・フォン・カウルバッハ

「長たちの長にさえ立ち向かいます」とも述べられています。
メシア（キリスト）が一世紀に登場しましたが、彼らはキリストに敵対し遂に刑柱に架け殺害します。
まさに「長たちの長にさえ立ち向った」と言えるでしょう。

そしてダニエルの預言は終末に起きる北の王と南の王の勢力争いへと続いていきます。

この預言はまた機会があれば考察してみたいと思います。

聖書の預言の確かさの一端に触れたのではないでしょうか。聖書はそのような預言で充ち満ちており、私たちがどのように行動すべきかについて教えています。